

佐伯鶴城新聞

since 1911

第76号

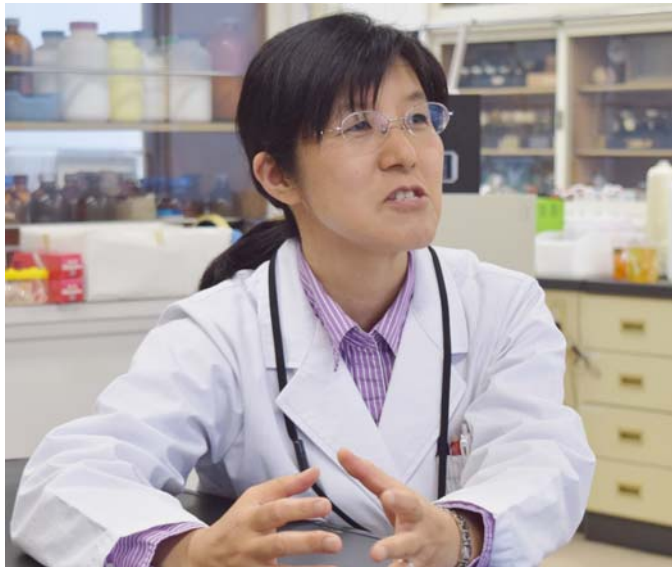
編集所 立城校
分集 県鶴城
大佐伯等 学部
高 新 部

編集責任者
吉田 真悟

協力者募集

『佐伯鶴城新聞』
編集の協力者を募
っています。興味
のある方は気軽に
化学準備室まで。

SSH始まる 科学的思考力は欠かせない



「自分から課題を見つけてほしい」と清水先生

本校が今年度、文部科学省指定のSSHに選ばれた。生徒たちの新たな探究活動に期待が強い。SSH研究主任の清水美記先生(理科)に話を聞いた。

本校が今年度、文部科学省指定のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)に選ばれた。SSHとは、将来の研究・開発・技術者の中で、日本だけでなく世界を牽引する人材を育成する取り組みのこと。

そこで、探究活動がどのように実施されるのか、SSH研究主任の清水美記先生(理科)に聞いた。

まず、本校における取り組みの目的を「与えられたことだけをやるのではなく、自ら発見して、解決できる生徒を育てること。文

系・理系を問わず『これでどうしてだろう』という疑問を自ら解決していく科学的思考力を養ってほしい」と語った。

今後の具体的な活動については「グローバルに活躍されている方や大学の先生を呼んでの講演や小中学校との連携などを考えている。佐伯市外での研修も計画したい」と清水先生。「1年次は、学校設定教科『創生探究』の学習で、情報・数学・英語での発表の力を総合して養っていききたい」と続けた。(吉田 真悟)



息を合わせ、カッターに挑戦

3日間で絆深まる 1年生の教育合宿

教育合宿が、4月28日より大分県マリンカレッジ・センターで行われた。

参加した1年生は、カヌーやカッターの体験、クラスマッチ、さらには集団生活を通じてお互いに交流を深め合った。大きな事故・怪我などもなく、参加した全員が無事、2泊3日の合宿を終えた。

「72期生の学年目標である『∞インフィニティ』を達成するためにも、有意義な3日間となった」と話すのは、ルーム長としてクラ

スをとめる菅谷魁瞳さん(一二期)。「クラスマッチや集団行動を通して、雰囲気良くなっていくのを感じた。この合宿の経験を生かし、担任の川津先生と共にみんなでより良いクラスを目指していきたい」と熱く語ってくれた。

この合宿を通して、クラスの間、友達どうしの絆を深め合った1年生。今回の合宿で得た経験と課題をもとに、更なる活躍が期待される。(橋 健太郎)

前期生徒会はやり切る 川部愛会長に聞く

前期生徒会長選挙において信任された川部愛さん(二二期)に、今後の抱負や活動について聞いた。

「前期生徒会は何においても『やり切る』ことを目標にしていきたい」と話す川部さん。「先輩方は『生徒会と全校生徒が連携する』を目標に努力されてきた。今期も、この目標を継承し、今まで解決に至らなかった事柄も含めて、今まで以上の成果をあげられる

ように、生徒の皆さんと共に歩んでいきたい」と続ける。

また、最も力を入れた行事に『鶴城祭文化の部』を挙げ「全校生徒がたくさんの時間と労力をかけて作り上げる行事。成功させられるかどうかは生徒会にかかっている。他の委員会とも協力し、盛り上がるように精一杯企画していきたい」と力強く語ってくれた。鶴城祭文化の部について

「新たな鶴城祭」と川部さん

で、文化委員長の菅菜月さん(二二期)は「実行委員会、中央委員会と協力して、伝統を生かしつつも新たな鶴城祭を目指したい。全員が楽しめる3日間にしてほしい」と述べた。(橋 健太郎)



「新たな鶴城祭」と川部さん

で、文化委員長の菅菜月さん(二二期)は「実行委員会、中央委員会と協力して、伝統を生かしつつも新たな鶴城祭を目指したい。全員が楽しめる3日間にしてほしい」と述べた。(橋 健太郎)

7品目の今号では、男子バレー部マネージャーの浪井さくらさん(三二期・左)と山本菜生さん(同・右)にブラウニーを紹介してもらった。

【材料】(A)薄力粉200g・ココア30g

・ベーキングパウダー
・小さじ1
(B)バター
120g
g・チョコ
レット18
0g・M卵
4個・三温
糖150g

【作り方】①角皿に薄くバターを塗りオーブン用クッキングシートを敷く。Aは合わせて振っておく②耐熱容器にBを入

れラップをしてレンジの中へ。500Wで1〜2分加熱③卵を溶き、三温糖を加えて混ぜる④③に②を加えて混ぜる。さらにAを入れてまた混ぜる。Cを入れたら170℃のオーブンで30分焼き、完成。

「美味しく食べてもらえるように心掛けています」と山本さん。選手への差し入れに、他の部活動でも参考にしてみたいかがだろう。(吉田 真悟)

男子バレー部 浪井さん・山本さん

手には特製ブラウニー



触角

新年度が始まり早くも1ヶ月が経つ。春は周りの環境の変化についていこうとして疲れがたまりやすい季節だ。そんな時こそ「睡眠」が大切になってくる▼「春眠暁を覚えず」という言葉がある。春の夜明けは気持ちよく、朝になった事にも気づかず起きるのが億劫だ、という意味だそう。しかし現在、快適な睡眠が出来るのかと問われて「はい」と答えられる人は少ないだろう。保健体育のノートには、睡眠不足を感じている高校生の割合が5割を超えているという調査結果が掲載されている▼睡眠不足を解消するには何を心がけるべきだろうか。まず思いつく事は睡眠時間を延長することだ。しかし、勉強や部活動に時間を当てなければ、この方法は避けたい。また、枕や布団などにこだわり、睡眠の質を上げる、というのには、個人差もありあまり現実的ではない。結局のところ、自分自身が心がけて、生活リズムを整えることが最善の道なのだろう▼「最善の道」とは言うのだが、決して楽な道ではない。リズムを整えるまでが大変だ。しかし、参考となる資料はたくさんある。例えば「早寝早起きができるコツ」など、インターネットや書籍には様々な方法を得られるだろう。今は焦らず、様々な方法を試してみよう。自分自身に合った方法が見つかるだろう